

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2019年11月14日(14.11.2019)



(10) 国際公開番号

WO 2019/216253 A1

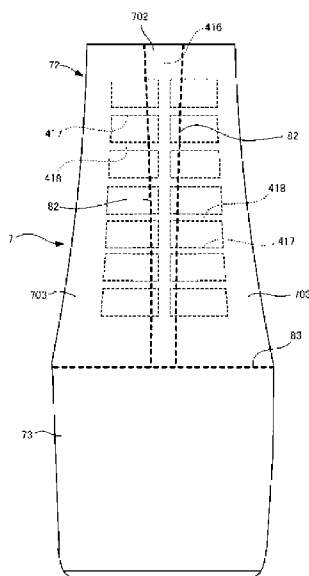
- (51) 国際特許分類:
B65D 75/62 (2006.01) *B65D 71/08* (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2019/017790
- (22) 国際出願日: 2019年4月25日(25.04.2019)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2018-091015 2018年5月9日(09.05.2018) JP
- (71) 出願人: 小林製薬株式会社(KOBAYASHI PHARMACEUTICAL CO., LTD.) [JP/JP]; 〒5410045 大阪府大阪市中央区道修町四丁目4番10号 Osaka (JP).
- (72) 発明者: 白木 成知 (SHIRAKI, Narutomo); 〒5670057 大阪府茨木市豊川一丁目30番3号 Osaka (JP). 井實 勇人 (IZITSU, Hayato); 〒5670057 大阪府茨木市豊川一丁目30番3号 Osaka (JP). 中須賀 洋平 (NAKASUKA, Youhei); 〒5670057 大阪府茨木市豊川一丁目30番3号 Osaka (JP).

- (81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, JO, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.
- (84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

(54) Title: PACKAGE

(54) 発明の名称: 包装体

【図6】



(57) **Abstract:** Provided is a package with perforations that are easier to break. A package according to the present invention comprises an article that has a surface to be wrapped, and a perforated sheet material that is attached to the surface to be wrapped in such a manner as to cover the surface to be wrapped, with a tension applied to the surface to be wrapped in a predetermined direction, and that has at least a pair of perforation lines extending in a first direction perpendicular to the predetermined direction, wherein the perforated sheet material includes a sheet material and the at least a pair of perforation lines that are configured by a plurality of through-holes that are arranged in the sheet material at predetermined intervals on a line extending in the first direction and penetrate the sheet material, the surface to be wrapped of the article has at least one protrusion extending along the first direction, and the perforated sheet material is disposed in such a manner that the pair of perforation lines extend so as to straddle the protrusion.

添付公開書類：

一 国際調査報告（条約第21条(3)）

(57) 要約：より破断しやすいミシン目を有する包装体を提供する。本発明に係る包装体は、被包装面を有する物品と、前記被包装面に所定の方向にテンションが作用した状態で、覆うように取り付けられ、当該所定の方向と直交する第1方向に延びる少なくとも一対のミシン目が形成された、ミシン目付きシート材と、を備え、ミシン目付きシート材は、シート材と、前記シート材において、前記第1方向に延びる線上に所定間隔をおいて並び、前記シート材を貫通する複数の貫通孔によって構成された少なくとも一対の前記ミシン目と、を備え、前記物品の被包装面には、前記第1方向に沿って延びる少なくとも一つの突部が形成されており、前記一対のミシン目は、前記突部を挟んで延びるように、前記ミシン目付きシート材が配置されている。

明 細 書

発明の名称：包装体

技術分野

[0001] 本発明は、包装体に関する。

背景技術

[0002] 特許文献1には、物品の周囲にシュリンクフィルムを取り付けた包装体が開示されている。シュリンクフィルムには、ミシン目が形成されており、物品を使用する際には、ミシン目を破断して、シュリンクフィルムを物品から取り外すように構成されている。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：特開5896573号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0004] しかしながら、ミシン目の破断には、改良の余地があり、さらに破断しやすいミシン目が要望されていた。本発明は、上記問題を解決するためになされたものであり、より破断しやすいミシン目を有する包装体を提供することを目的とする。

課題を解決するための手段

[0005] 本発明に係る包装体は、被包装面を有する物品と、前記被包装面に所定の方向にテンションが作用した状態で、覆うように取り付けられ、当該所定の方向と直交する第1方向に延びる少なくとも一対のミシン目が形成された、ミシン目付きシート材と、を備え、ミシン目付きシート材は、シート材と、前記シート材において、前記第1方向に延びる線上に所定間隔をおいて並び、前記シート材を貫通する複数の貫通孔によって構成された少なくとも一対の前記ミシン目と、を備え、前記物品の被包装面には、前記第1方向に沿って延びる少なくとも一つの突部が形成されており、前記一対のミシン目は、

前記突部を挟んで延びるように、前記ミシン目付きシート材が配置されている。

[0006] この構成によれば、ミシン目付きシート材が、突部を有する被包装面に巻き付けられているため、突部の両側にはテンションが作用しやすくなる。そのため、突部の両側にあるミシン目の貫通孔には、第1方向と直交する方向に開くような力が作用する。したがって、ミシン目の破断を容易に行うことができる。なお、第1方向はテンションが作用する方向と厳密に直交していてもよく、上記効果を得ることができる限り、多少であれば、ずれていてもよい。

[0007] 上記包装体においては、前記複数の貫通孔のうち、少なくとも一部の複数の貫通孔は、前記第1方向と直交する第2方向に開いているものとすることができる。

[0008] この構成によれば、第1方向に沿ってミシン目を破断するとき、その力が多少ずれたとしても、貫通孔が第2方向に開いているため、第1方向からの力のずれを貫通孔に作用させることができる。そのため、ミシン目を破断させやすくすることができる。

[0009] 上記包装体においては、前記複数の貫通孔のうち、少なくとも一部の複数の貫通孔は、隣接する貫通孔と向き合う部分が円弧状に形成されているものとすることができる。

[0010] この構成によれば、隣接する貫通孔と向き合う部分が円弧状に形成されているため、貫通孔の第2方向の幅は、隣接する貫通孔に近づくにつれて小さくなる。そのため、ミシン目の破断にともなって、貫通孔に作用した力を貫通孔における幅の狭い部分、つまり隣接する貫通孔に最も近い箇所まで誘導することができる。したがって、ミシン目の破断をさらに容易に行うことができる。

[0011] 上記包装体において、前記ミシン目は、前記第1方向の一端部から他端部に向けて破断されるように構成され、前記複数の貫通孔は、前記第2方向に開いた複数の貫通孔を含む第1貫通孔群と、前記第1貫通孔群の前記他端部

側に配置され、前記線状に形成された複数の貫通孔を含む第2貫通孔群と、を有し、前記第1貫通孔群の貫通孔は、前記他端部側にいくにしたがって、前記第2方向の幅が小さくなるように形成されているものとすることができる。

[0012] この構成によれば、ミシン目の破断が進行するにつれて、第1貫通孔群における貫通孔の第2方向の幅が狭くなり、各貫通孔において隣接する貫通孔の近接する端部まで破断に係る力を誘導しやすくなっているため、破断線が、より線に沿わせるようにすることができる。そのため、第1貫通孔群の破断が終了した後、破断に係る力を、線状の貫通孔を含む第2貫通孔群に容易に誘導することができる。したがって、第2貫通孔群のような線状の貫通孔を有するミシン目であっても、破断を容易に行うことができる。

[0013] 上記包装体において、前記各ミシン目は、前記第1方向の一端部から他端部に向けて破断されるように構成され、前記一端部側よりも他端部側において前記テンションが大きいものとすることができる。

[0014] この構成によれば、他端部側においてテンションが大きいため、破断が進んだ他端部側において、ミシン目を破断させやすくなる。そのため、次のような利点がある。例えば、両ミシン目の間の切り取り領域を引っ張って、一端部側から他端部側へ向かってミシン目を破断させると、破断が進むにつれて、切り取り領域の長さが長くなり、力を作用させがたくなり、また、ミシン目に沿って破断させにくくなる（切り取り領域が長くなるのでコントロールしにくくなる）。このような場合、上記のように、他端部側においてテンションが大きいと、切り取り領域の長さが長くなっても、ミシン目の破断を容易に行うことができる。

[0015] 上記包装体において、前記各ミシン目は、前記第1方向の一端部から他端部に向けて破断されるように構成され、前記一対のミシン目の間の距離が、他端部側にいくにしたがって、狭くなるように形成することができる。

[0016] この構成によれば、例えば、両ミシン目の間の切り取り領域を引っ張って、一端部側から他端部側へ向かってミシン目を破断させると、この力を両ミ

シン目の間に集中させやすくなる。そのため、切り取り領域を引っ張る力が、両ミシン目よりも外側に向くことを防止することができる。したがって、切り取り領域の内部あるいはミシン目に沿って、力を作用させやすくなり、ミシン目の破断を容易に行うことができる。

[0017] 上記包装体において、前記物品の被包装面には、前記第 1 方向に沿って所定間隔おきに凹部が形成されており、前記ミシン目付きシート材は、前記ミシン目が前記凹部上を通過する位置に、配置されているように構成することができる。

[0018] この構成によれば、ミシン目が凹部上を通過するように配置されているため、凹部間の凸部がシート材を支持し、テンションを緩和することができる。その結果、ミシン目が不意に破断するのを防止することができる。

発明の効果

[0019] 本発明によれば、ミシン目を、より破断しやすくすることができる。

図面の簡単な説明

[0020] [図1]本発明に係る包装体において包装される物品の一実施形態を示す正面図である。

[図2]図 1 の側面図である。

[図3]図 1 の物品に含まれる容器の正面図である。

[図4]図 3 の側面図である。

[図5]図 1 の物品を包装した包装体の一実施形態を示す正面図である。

[図6]図 5 の側面図である。

[図7]図 6 の平面図である。

[図8]ミシン目の例を示す平面図である。

[図9]図 8 の他の例を示す平面図である。

[図10]図 8 の他の例を示す平面図である。

[図11]図 8 の他の例を示す平面図である。

[図12]図 1 1 のミシン目の破断を説明する平面図である。

発明を実施するための形態

[0021] A. 包装体

本発明に係る包装体の一実施形態について、図面を参照しつつ説明する。
本実施形態に係る包装体は、ミシン目付きシート材で形成されたシュリンクフィルムにより、薬剤揮散器（物品）を包装したものである。まず、薬剤揮散器について説明する。

[0022] <1. 薬剤揮散器>

図1は薬剤揮散器の正面図、図2は図1の側面図である。図1及び図2に示すように、この薬剤揮散器30は、芳香剤などの薬剤が収容される樹脂製の容器3と、この容器3の上部に着脱自在に取り付けられる樹脂製のカバー部材4と、を備えている。以下では、説明の便宜のため、図1の紙面の手前側及び奥側を、それぞれ正面側及び背面側と称し、図1の左右を側面と称することとする。

[0023] <1-1. 容器>

まず、容器3について説明する。図3は容器の正面図、図4は図3の側面図である。図3及び図4に示すように、容器3は、開口を有する上部31、この上部31と連続し下方へ延びる胴部32、及びこの胴部32の下部を塞ぐ底部33とで構成されており、これらによって内部空間を形成している。そして、この内部空間には、芳香剤等の液状の薬剤が収容される。上部31は、蓋部38が取り付けられる円筒状の首部311を有しており、この首部311の上端に円筒状の開口（図示省略）が形成されている。そして、この開口の周縁には、ねじ溝（図示省略）が形成されており、開口を塞ぐ蓋部38を着脱自在に取り付け可能となっている。

[0024] また、蓋部38の下面には薬剤を含浸する揮散体（図示省略）が取り付けられている。この揮散体は、蓋部38が開かれるまでは内部空間に収容され、薬剤が含浸するようになっている。そして、蓋部38を首部311から取り外した後、揮散体を引き上げて、外部に露出させることができるようになっている。

[0025] 首部311の下端には、平面視楕円状の肩部312が設けられている。こ

の肩部 3 1 2 は、首部 3 1 1 の下端から連続して概ね水平に延びる上面部 3 1 2 1 と、この上面部 3 1 2 1 から連続して下方へ延びる側面部 3 1 2 2 と、側面部 3 1 2 2 と胴部 1 2 とを連結する段部 3 1 2 3 と、で構成されている。また、側面部 3 1 2 2 には、周方向に沿って延びる凹部 3 1 2 4 が形成されている。この凹部 3 1 2 4 は、この容器 3 にカバー部材 4 を取り付ける際に、カバー部材 4 に設けられた突部（図示省略）を嵌合させるためのものでもある。そして、肩部 3 1 2 の下端には、胴部 3 2 が連結されている。また、胴部 3 2 は筒状に形成され、その下端が底部 3 3 によって塞がれている。

[0026] <1-2. カバー部材>

次に、カバー部材 4 について説明する。図 1 及び図 2 に示すように、カバー部材 4 は、円筒状の本体部 4 1 と、この本体部 4 1 の上部開口を塞ぐ円形状の天面部 4 2 と、を備えており、これらが一体的に形成されている。

[0027] 本体部 4 1 は、正面側及び背面側にそれぞれ配置される一対の第 1 パネル 4 1 1 と、その両側にそれぞれ配置される一対の第 2 パネル 4 1 2 とを連結することで、円筒状に形成されている。図 1 に示すように、第 1 パネル 4 1 1 には、複数の開口 4 1 5 が形成されており、これら開口 4 1 5 を介して本体部 4 1 の内部空間と外部とが連通している。

[0028] 図 2 に示すように、第 2 パネル 4 1 2 は、上下方向に延びるリブ 4 1 6 と、このリブ 4 1 6 と両第 1 パネル 4 1 1 との境界との間で延びる板状の一対のパネル片 4 1 3 と、を備えている。リブ 4 1 6 は、上方から下方に向けてやや湾曲するように延びている。すなわち、図 1 に示すように、リブ 4 1 6 の下端は、リブ 4 1 6 の上端よりも、本体部 4 1 の中心からやや径方向外方に位置しており、本体部 4 1 の内部空間に向けて凸となるようにやや湾曲している。

[0029] 両パネル片 4 1 3 は、リブ 4 1 6 を介して角度をなして連結されている。また、パネル片 4 1 3 には、上下方向に並ぶ複数の矩形状の開口部 4 1 7 が形成されており、これら開口部 4 1 7 を介して、本体部 4 1 の内部空間と外

部とが連通している。また、上下に隣接する開口部 4 1 7 の間には、棒状の連結片 4 1 8 が形成されている。

[0030] <2. シュリンクフィルム>

次に、上述した薬剤揮散器 3 0 をシュリンクフィルムにより包装した包装体について、図面を参照しつつ、説明する。図 5 は包装体の正面図、図 6 は図 5 の側面図、図 7 は図 6 の平面図である。

[0031] 図 5 ～図 7 に示すように、シュリンクフィルム 7 は、薬剤揮散器 3 0 の外周面のほぼ全体に密着するように取り付けられている。すなわち、シュリンクフィルム 7 は、図 7 に示すように、カバー部材 4 の天面部 4 2 の周縁部から、図 5 及び図 6 に示すように、カバー部材 4 の本体部 4 1 の外周面を経て、容器 3 の胴部 3 2 の下端付近までを覆っている。以下では、シュリンクフィルム 7 のうち、カバー部材 4 の天面部 4 2 を覆う部位を第 1 部位 7 1、カバー部材 4 の本体部 4 1 の外周面（被包装面）を覆う部位を第 2 部位 7 2、容器 3 の胴部 3 2 を覆う部位を第 3 部位 7 3 と称することとする。これら第 1 ～第 3 部位 7 1 ～7 3 は、一体的に形成されている。

[0032] そして、図 7 に示すように、第 1 部位 7 1 には、一対の第 1 ミシン目 8 1 が概ね平行に形成されている。すなわち、両第 1 ミシン目 8 1 は、第 1 部位 7 1 の内縁から外縁まで径方向外方に延びている。そして、各第 1 ミシン目 8 1 と連続するように、第 2 部位 7 2 には、一対の第 2 ミシン目 8 2 が形成されており、第 3 部位 7 3 との境界よりやや下方まで延びている。そして、両第 2 ミシン目 8 2 の下端を通り、第 2 部位 7 2 と第 3 部位 7 3 との境界よりやや下方を、容器 3 の胴部 3 2 の全周に亘って周方向に延びる第 3 ミシン目 8 3 が形成されている。

[0033] また、両第 1 ミシン目 8 1 の間の領域は、第 1 切り取り領域 7 0 1 を形成し、両第 2 ミシン目 8 2 の間の領域は第 2 切り取り領域 7 0 2 を形成している。そして、第 1 及び第 2 切り取り領域 7 0 1、7 0 2 は、一体的に連結されている。また、シュリンクフィルム 7 において、第 1 及び第 2 切り取り領域 7 0 1、7 0 2、及び第 3 ミシン目 8 3 により囲まれた領域を、カバー領

域 7 0 3 と称することとする。

[0034] シュリンクフィルムは 7、例えば、ポリスチレン、ポリエチレンテレフタレート、ポリプロピレン、またはポリ塩化ビニルなど、あるいは、これらを複数含有するものなどを採用することができる。また、シュリンクフィルム 7 の厚みは、特には限定されないが、例えば、35～60 μm とすることが好ましく、40～55 μm とすることがさらに好ましい。

[0035] <3. シュリンクフィルムのミシン目>

一对の第 2 ミシン目 8 2 は、その間の距離が、下方にいくにしたがって小さくなっている。また、ミシン目を構成する貫通孔の構成は特には限定されない。

[0036] 両第 2 ミシン目 8 2 は、リブ 4 1 6 を挟んで両側に配置されているため、リブ 4 1 6 が突部として作用し、各第 2 ミシン目 8 2 には周方向にテンションが作用している。さらに、リブ 4 1 6 は、下方に行くにしたがって径方向外方に位置するように、湾曲しているため、両第 2 ミシン目 8 2 には、下方に行くにしたがって、周方向に作用するテンションが大きくなっている。

[0037] <4. 包装体の使用方法>

次に、包装体の使用方法について説明する。まず、第 1 切り取り領域 7 0 1 を指で掴み、下方に引っ張ると、第 1 切り取り領域 7 0 1 が切り取られるのに続いて、第 2 切り取り領域 7 0 2 が切り取られていく。そして、両第 2 ミシン目 8 2 が、その下端まで破断し、シュリンクフィルム 7 から切り取られると、第 2 切り取り領域 7 0 2 が切り取られた部分から指を挿入し、カバー領域 7 0 3 を切り離す。すなわち、第 3 ミシン目 8 3 を破断し、カバー領域 7 0 3 を第 3 部位 7 3 から切り離す。こうして、シュリンクフィルム 7 のうち、第 1 部位 7 1 及び第 2 部位 7 2 が取り外され、カバー部材 4 が露出した状態となる。一方、第 3 部位 7 3 は容器 3 に取り付けられたままの状態となる。

[0038] その後、カバー部材 4 を一旦取り外し、容器 3 の蓋部 3 8 を開けて芳香剤等が含浸した揮散体を引き上げ、露出させる。続いて、揮散体を保護するた

めに、カバー部材４を、図８及び図９に示すように、容器３に取り付ける。こうして、芳香剤等の薬剤が揮散体からカバー部材４の開口部４１５，４１７を介して外部に揮散し、芳香効果等を得ることができる。

[0039] <５．特徴>

以上のように、本実施形態によれば、以下の効果を得ることができる。

(１) シュリンクフィルム７は、リブ４１６に密着するようにカバー部材４に巻き付けられているため、リブ４１６によってシュリンクフィルムがより引っ張られ、リブ４１６を挟む領域には強くテンションが作用する。そのため、リブ４１６を挟むように配置されている第２ミシン目８２には、カバー部材４の周方向、つまり第２ミシン目８２とは直交する方向にテンションが作用し、これによって、第２ミシン目８２を破断しやすくすることができる。

[0040] (２) リブ４１６は、湾曲しているため、下方に行くにしたがって、シュリンクフィルム７には大きいテンションが作用すると考えられる。したがって、下方にいくにしたがって、第２ミシン目８２の貫通孔には、周方向（第２方向）に大きい力が作用する。そして、第２切り取り領域７０２をシュリンクフィルム７から切り取る時、切り取りが進むと、既に切り取られた第２切り取り領域７０２の長さが長くなるため、第２切り取り領域７０２を引っ張る力を、より強くする必要があり、破断が容易ではなくなる。しかしながら、上記のように、第２ミシン目８２には下方の方が大きいテンションが作用するため、第２切り取り領域７０２の長さが長くなっても、第２ミシン目８２の破断を容易に行うことができる。

[0041] (３) シュリンクフィルム７は、リブ４１６の両側において、複数の開口部４１７を覆うように配置されている。すなわち、リブ４１６の両側においては、上下方向に開口部４１７と連結片４１８とが交互に並んでいる（凹凸が交互に並んでいるといえる）。ここで、開口部４１７はシュリンクフィルム７に接せず、上記のように大きいテンションが作用するが、連結片４１８はシュリンクフィルム７に接するため、大きいテンションは作用しない。した

がって、第2ミシン目82において、開口部417と対応する部分には大きい力が作用し、破断しやすいが、その一方で、連結418片と接する部分には大きい力が作用しないため、容易な破断を抑制することができる。したがって、この構成により、破断の容易性と、不意の破断の防止を両立することができる。

[0042] B. 変形例

以上、本発明の一実施形態について説明したが、本発明はこれに限定されるものではなく、その趣旨を逸脱しない限りにおいて種々の変更が可能である。なお、以下の変形例は、適宜組み合わせ可能である。

[0043] <1>

ミシン目を構成する貫通孔は、種々の態様が可能である。そして、以下の態様は、適宜組み合わせることができる。以下、説明する。

[0044] <1-1. 態様1>

貫通孔21は、線Lに沿うように線状に形成することができる。この態様では、貫通孔21は閉じている。

[0045] <1-2. 態様2>

図8に示すように、複数の貫通孔21の少なくとも一部は、第1方向と直交する第2方向に開いている。貫通孔21の形状は、第2方向に開いているのであれば、特には限定されないが、例えば、図8に示すような、円形(a)、第1方向に長径を有する楕円(b)、第2方向に長径を有する楕円(c)、第2方向に延びる線形状(d)、矩形状(e)など、あるいは、これらを組み合わせた異形状など、種々の形状にすることができる。

[0046] 図8に示すように、貫通孔21の第1方向及び第2方向の内径A、Bは、0.3～1.0mmであることが好ましく、0.5～1.0mmであることが好ましい。内径A、Bはいずれが長くてもよく、あるいは同じ長さであってもよい。また、貫通孔21間の間隔Cは、0.3～1.0mmであることが好ましく、0.5～1.0mmであることが好ましい。さらに、貫通孔の内径A(B)と間隔Cとの長さの比は、1:0.5～1:1.3であること

が好ましく、 $1 : 0.5 \sim 1 : 1.2$ であることがさらに好ましく、 $1 : 0.5 \sim 1 : 1.0$ であることが特に好ましい。なお、この寸法は、本明細書における第2方向に開いたすべての貫通孔に適用することができる。

[0047] ミシン目2が、このように構成されれば、第1方向に沿ってミシン目2を破断するとき、その力が線Lから多少ずれたとしても、貫通孔21が第2方向に開いているため、力のずれを貫通孔21内に作用させることができる。そのため、力が厳密に線L上に作用しなくても、ミシン目2を破断させることができる。したがって、ミシン目2の破断作業を容易に行うことができる。

[0048] <1-3. 態様3>

図9に示すように、隣接する貫通孔において、互いに向き合う箇所が円弧状に形成された形状、つまり、図8(a)～図8(c)のような形状とすれば、次の効果を得ることができる。

[0049] すなわち、隣接する貫通孔21と向き合う部分が円弧状に形成されているため、貫通孔21の第2方向の幅は、隣接する貫通孔21に近づくにつれて小さくなる。そのため、図9に示すように、ミシン目2の破断にともなって、貫通孔21に作用した力を、線Sで示すように、貫通孔21における幅の狭い部分、つまり隣接する貫通孔21に最も近い箇所Gまでスムーズに誘導することができる。したがって、ミシン目2の破断をさらに容易に行うことができる。

[0050] <1-4. 態様4>

ミシン目は、全ての貫通孔21が同じ大きさでなくてもよく、例えば、図10に示すように、上述したように第2方向に広がっている複数の貫通孔21を有する第1貫通孔群201と、この第1貫通孔群201よりも破断方向の下流側に配置され、第2方向に広がっていない線状の複数の貫通孔22を有する第2貫通孔群202と、を備えることができる。そして、第1貫通孔群201では、破断方向にいくにしたがって、貫通孔21の第2方向の幅が狭くなっている。そして、第2方向の幅が最も狭い貫通孔21に続いて、第

2貫通孔群202が配置されている。

[0051] これにより、第1貫通孔群201からミシン目2の破断が進行するにつれて、貫通孔21の第2方向の幅が狭くなり、各貫通孔において隣接する貫通孔に近接する端部Gまで破断に係る力を誘導しやすくなっているため、破断線が、より線Lに沿わせるように誘導することができる。そのため、第1貫通孔群201の破断が終了した後、破断に係る力を、線状の貫通孔22を含む第2貫通孔群202に容易に誘導することができる。したがって、第2貫通孔群202のような幅が狭いミシン目であっても、容易に破断を行うことができる。

[0052] <1-5. 態様5>

図11に示すように、一对のミシン目2は、破断方向の下流側にいくにしたがって、両ミシン目2の間の距離が狭くなるように、互いに傾斜するように形成されている。ここでは、各ミシン目2の延びる方向に沿う線をLとする。そして、各ミシン目2は、線L上に、所定間隔をおいて並ぶ複数の貫通孔21により構成されている。

[0053] これにより、切り取り領域28を引っ張ると、この力を両ミシン目2の間に集中させやすくなる。そのため、切り取り領域28を引っ張る力が、両ミシン目2よりも外側に向くことを防止することができる。したがって、図12に示すように、切り取り領域28の内部あるいはミシン目2に沿って、力を作用させやすくなり、破断線K（シート材が引き裂かれる線）が、ミシン目2から内側にずれたとしても、破断が進むにつれて破断線Kをミシン目2に戻すことができる。よって、切り取り領域28の切り取りを容易に行うことができる。

[0054] <2>

上記実施形態では、本発明に係るシート材をシュリンクフィルム7として薬剤揮散器30に包装した例を示したが、これは一例に過ぎない。まず、シュリンクフィルムの包装対象となる物品は、種々のものにすることができ、上記実施形態に係る芳香剤以外にも種々の容器、箱などの物品当然に適用

することができる。そして、これらの物品を覆うに当たって、ミシン目の延びる第1方向と概ね直交する所定の方向にテンションが作用していればよい。また、シュリンクフィルムの形状、つまりシュリンクフィルムで覆う部分の形状、大きさも特には限定されない。さらに、シュリンクフィルムに設けられるミシン目も、シュリンクフィルムの取り外し方法などに応じて、適宜設計すればよく、上記<1>で説明したとおり適用することができる。

[0055] <3>

なお、シュリンクフィルムのようなミシン目付きシート材を物品に取り付ける場合、上述したように、テンションを大きくするために、リブ416の両側にミシン目を配置することが好ましいが、これに限定されない。すなわち、リブ416のような突部を物品の外周面に設けるほか、シュリンクフィルムに対してテンションが作用しやすくなるような、鋭利な角部、または曲率半径の小さい円弧状の角部などを覆うようにシート材を巻き付け、その両側にミシン目を配置すれば、破断しやすくなる。なお、本発明に係るシート材は、シュリンクフィルム7に限られず、テンションが作用したシート材であってもよい。

[0056] <4>

一对のミシン目の形状は特には限定されず、所望の切り取り領域の形状に合わせて形成されていればよく、少なくとも突部を挟むように設けられていればよい。したがって、ミシン目2は直線状以外の曲線状に延びていてもよく、あるいは直線と曲線との組み合わせであってもよい。いずれの場合も、ミシン目2の延びる方向が、本発明の第1方向となる。

[0057] <5>

上記実施形態では、カバー部材4の径を下方にいくにしたがって大きくすることで、シュリンクフィルム7に対し、下方にいくほどテンションが大きくなるように構成しているが、これに限定されない。すなわち、破断する方向にいくにしたがって、あるいは破断する方向の下流側でテンションが大きくなっていけばよい。例えば、カバー部材4の外径を一定にするととも

に、シュリンクフィルム 7 の内径を破断方向の下流側で予め小さくなるように絞り、これに伴ってシュリンクフィルム 7 に作用するテンションを大きくすることができる。これ以外にも、テンションを変化させることができるような形状であれば、特に限定されない。なお、このようなテンションの変化が生じず、破断方向で概ね一定のテンションであってもよい。

[0058] <6>

破断の容易性と、不意の破断の防止を両立するためには、上記のように、物品に所定間隔をおいて開口部 4 1 7 を形成し、開口部 4 1 7 の間の連結片 4 1 8 によってシュリンクフィルム 7 を支持するように構成すればよいが、これに限定されない。例えば、矩形状以外の開口部でもよい。また、開口部 4 1 7 でなくてもよく、シュリンクフィルム 7 に接しないような凹部であってもよい。また、所定間隔をおいて凸部を設け、凸部でシュリンクフィルム 7 を支持するとともに、その間の凹部がシュリンクフィルム 7 に接しないように構成することもできる。また、凹部の並ぶ方向は、必ずしも上下方向でなくてもよく、ミシン目の延びる第 1 方向に所定間隔をおいて配置されていればよい。なお、本発明に係るシート材は、シュリンクフィルム 7 に限られず、所定の方向にテンションが作用したシート材であってもよい。そして、このテンションの作用する方向と概ね直交するようにミシン目の第 1 方向が設定されていればよい。

符号の説明

- [0059] 1 シート材
2 ミシン目
2 1 貫通孔
3 0 物品
4 1 6 リブ（突部）
4 1 7 開口部（凹部）

請求の範囲

- [請求項1] 被包装面を有する物品と、
前記被包装面に所定の方向にテンションが作用した状態で、覆うように取り付けられ、当該所定の方向と直交する第1方向に延びる少なくとも一対のミシン目が形成された、ミシン目付きシート材と、を備え、
ミシン目付きシート材は、
シート材と、
前記シート材において、前記第1方向に延びる線上に所定間隔をおいて並び、前記シート材を貫通する複数の貫通孔によって構成された少なくとも一対の前記ミシン目と、を備え、
前記物品の被包装面には、前記第1方向に沿って延びる少なくとも一つの突部が形成されており、
前記一対のミシン目は、前記突部を挟んで延びるように、前記ミシン目付きシート材が配置されている、包装体。
- [請求項2] 前記複数の貫通孔のうち、少なくとも一部の複数の貫通孔は、前記第1方向と直交する第2方向に開いている、請求項1に記載の包装体。
- [請求項3] 前記複数の貫通孔のうち、少なくとも一部の複数の貫通孔は、隣接する貫通孔と向き合う部分が円弧状に形成されている、請求項2に記載の包装体。
- [請求項4] 前記ミシン目は、前記第1方向の一端部から他端部に向けて破断されるように構成され、
前記複数の貫通孔は、
前記第2方向に開いた複数の貫通孔を含む第1貫通孔群と、
前記第1貫通孔群の前記他端部側に配置され、前記線状に形成された複数の貫通孔を含む第2貫通孔群と、を有し、
前記第1貫通孔群の貫通孔は、前記他端部側にいくにしたがって、

前記第 2 方向の幅が小さくなるように形成されている、請求項 2 または 3 に記載の包装体。

[請求項5] 前記各ミシン目は、前記第 1 方向の一端部から他端部に向けて破断されるように構成され、

前記一端部側よりも他端部側において前記テンションが大きい、請求項 1 から 4 のいずれかに記載の包装体。

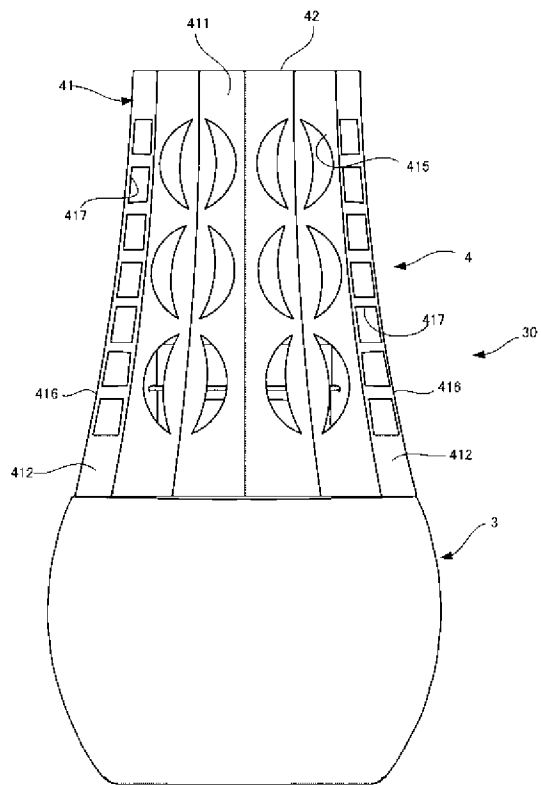
[請求項6] 前記各ミシン目は、前記第 1 方向の一端部から他端部に向けて破断されるように構成され、

前記一对のミシン目の間の距離が、他端部側にいくにしたがって、狭くなるように形成されている、請求項 1 から 5 のいずれかに記載の包装体。

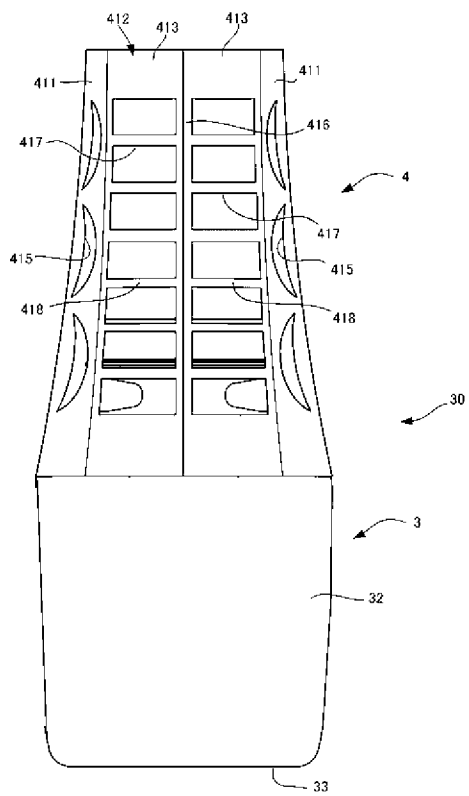
[請求項7] 前記物品の被包装面には、前記第 1 方向に沿って所定間隔おきに凹部が形成されており、

前記ミシン目付きシート材は、前記ミシン目が前記凹部上を通過する位置に、配置されている、請求項 1 から 6 のいずれかに記載の包装体。

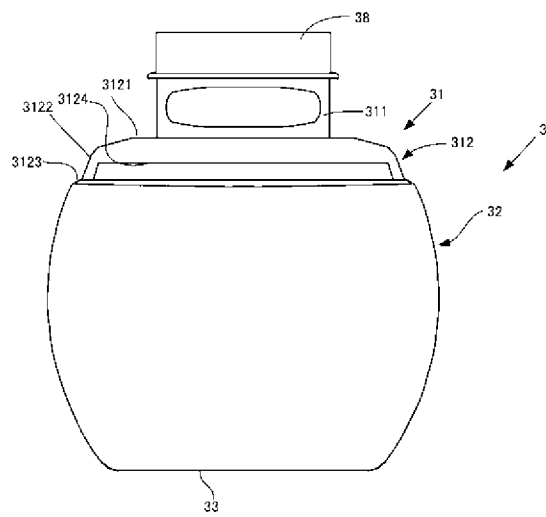
[図1]



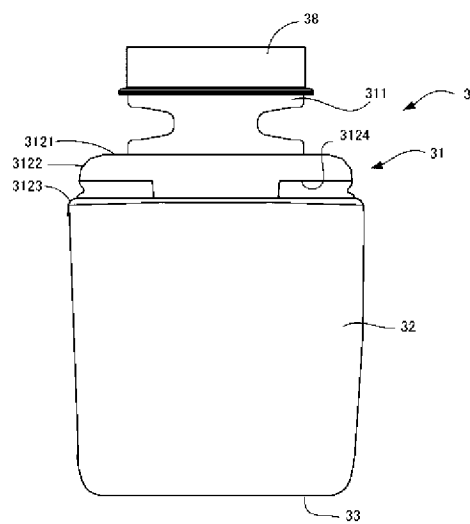
[図2]



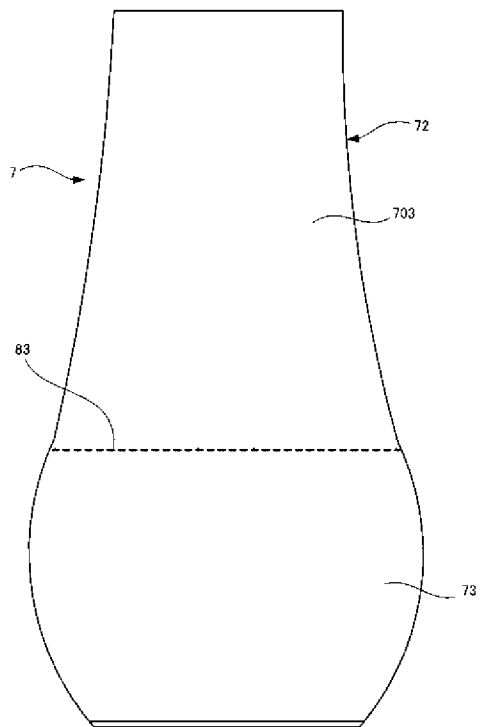
[図3]



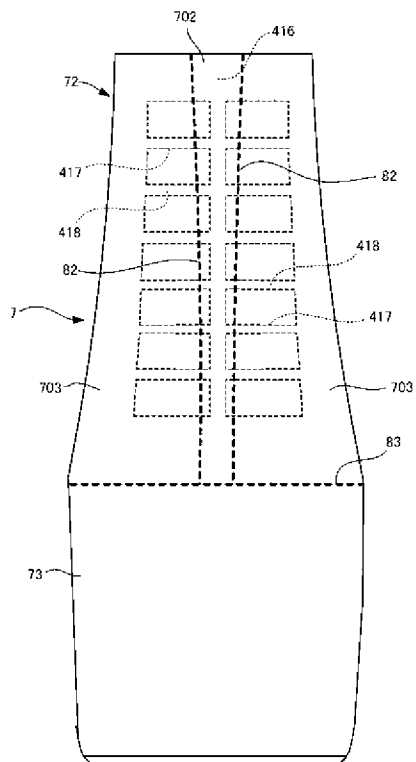
[図4]



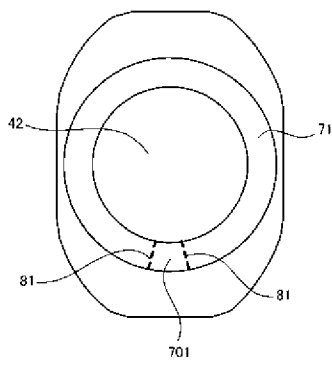
[図5]



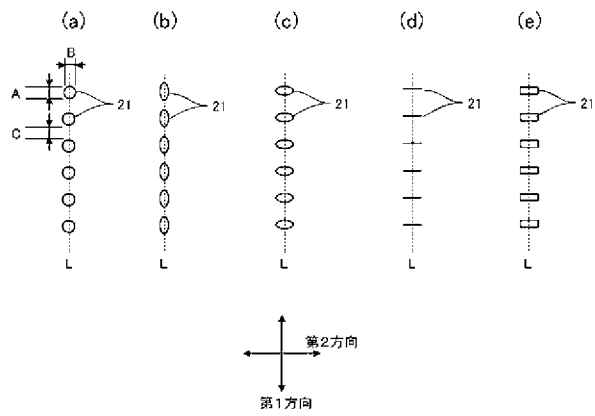
[図6]



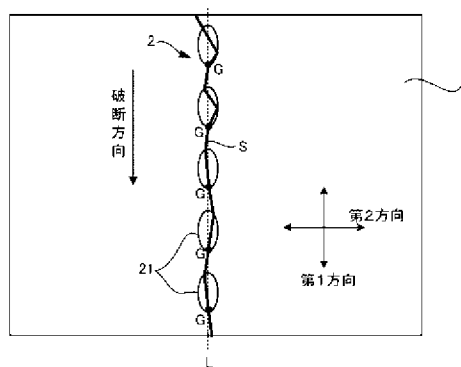
[図7]



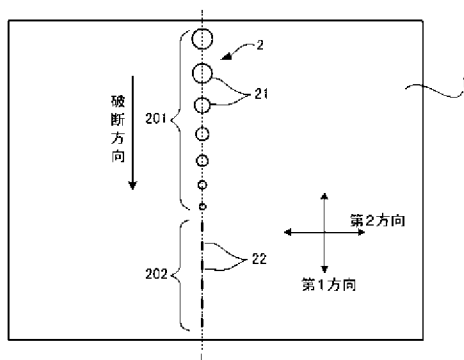
[図8]



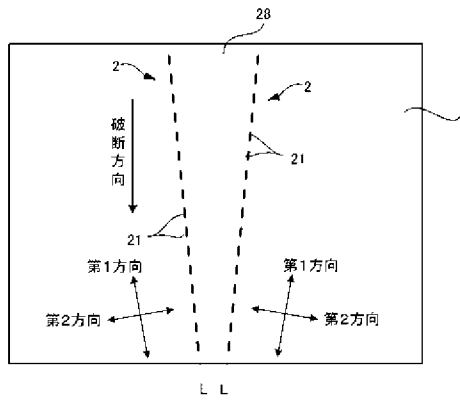
[図9]



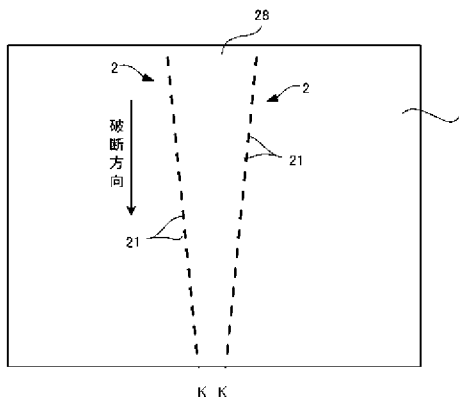
[図10]



[図11]



[図12]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2019/017790

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl. B65D75/62 (2006.01) i, B65D71/08 (2006.01) i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl. B65D75/62, B65D71/08

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Published examined utility model applications of Japan 1922-1996

Published unexamined utility model applications of Japan 1971-2019

Registered utility model specifications of Japan 1996-2019

Published registered utility model applications of Japan 1994-2019

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X Y	JP 2007-076173 A (FUJI SEAL INT INC.) 29 March 2007, paragraphs [0017]-[0024], fig. 1 (Family: none)	1 2-7
Y	JP 2004-018089 A (OSAKA SEALING PRINTING CO., LTD.) 22 January 2004, paragraphs [0010]-[0022], fig. 1-4 (Family: none)	2-7
Y	JP 2013-151303 A (TOYO INK SC HOLDINGS CO., LTD.) 08 August 2013, paragraphs [0028]-[0036], fig. 1 (Family: none)	7

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C. ☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:	"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance	"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date	"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)	"&" document member of the same patent family
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means	
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed	

Date of the actual completion of the international search 04.06.2019	Date of mailing of the international search report 18.06.2019
Name and mailing address of the ISA/ Japan Patent Office 3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8915, Japan	Authorized officer Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2019/017790

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 2006-213372 A (ROHTO PHARMACEUT CO., LTD.) 17 August 2006 (Family: none)	1-7

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC））

Int.Cl. B65D75/62(2006.01)i, B65D71/08(2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC））

Int.Cl. B65D75/62, B65D71/08

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2019年
日本国実用新案登録公報	1996-2019年
日本国登録実用新案公報	1994-2019年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X Y	JP 2007-076173 A（株式会社フジシールインターナショナル） 2007.03.29, 段落[0017]-[0024], [図1]（ファミリーなし）	1 2-7
Y	JP 2004-018089 A（大阪シーリング印刷株式会社）2004.01.22, 段落[0010]-[0022], [図1]-[図4]（ファミリーなし）	2-7
Y	JP 2013-151303 A（東洋インキSCホールディングス株式会社） 2013.08.08, 段落[0028]-[0036], [図1]（ファミリーなし）	7

C欄の続きにも文献が列挙されている。

パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

04.06.2019

国際調査報告の発送日

18.06.2019

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁（ISA/J P）

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

宮崎 基樹

3N

3424

電話番号 03-3581-1101 内線 3361

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
A	JP 2006-213372 A (ロート製薬株式会社) 2006.08.17, (ファミリーなし)	1-7